大学院リサイタルシリーズ⑧

弦三昧

2020年10月17日(土)15:00開演(14:30開場)

洗足学園音楽大学 シルバーマウンテン1F

木村蒼（ピアノ：西川麻里子）

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン／ヴァイオリンソナタ第5番

濵萌香（ピアノ：鈴木由紀子）

アントニン・ドヴォルザーク／ソナチネト長調作品100より第1.3.4楽章

フリッツ・クラースラー／カヴァティーナ

バルトーク・ベーラ／ルーマニア民族舞曲

林桃子（ピアノ：小林裕子）

ヨハネス・ブラームス／ヴァイオリン協奏曲ニ長調作品77より第1.3楽章

⚠新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
・大声や対面での会話はお控えください。
・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン/ヴァイオリンソナタ第5番

(ヴァイオリン:木村蒼)

この曲はルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンが1800 年から 1801 年にかけて作曲し、第 4 番(作品23)とほぼ同時期に作曲された。1801 年 10 月に、ウィーンのモロ社から出版され、モーリッツ・フォン・フリース伯爵に捧げられた。幸福感に満ちた明るい曲想から『春』、『スプリングソナタ』という愛称で親しまれているが、ベートーヴェン自身が付けたわけではなくこの曲を聴いた人が付けたニックネームである。第 5 番は4つの楽章からなっている。

第 1 楽章 Allegro ヘ長調 4 分の 4 拍子 ソナタ形式。冒頭では、ピアノの伴奏に乗ってヴァイオリンで第 1 主題が流れるような爽やかな旋律が奏される。展開部で初めて現れる 3 連音は、緊張を高める意味でもベートーヴェンは極めて効果的にこの 3 連音を使ったと感嘆させられる。

第2楽章 Adagio molto espressivo 変ロ長調 4 分の 3 拍子 三部形式。散和音の伴奏に乗って、ピアノ、ヴァイオリンの順で歌われる。

第 3 楽章 Scherzo , Allegro molto ヘ長調 4 分の 3 拍子。主部はピアノで軽やかに始まり、トリオ部分はヴァイオリンとピアノの上昇や下降が特徴的。

第 4 楽章 Rondo , Allegro ma non troppo ヘ長調 2 分の 2 拍子 ロンド形式。「A－B－A－C－A－B－A－ コーダ」の構造になる。最後は 3 連音の連続で力強く曲は終わる。

♪profile♪

栃木県出身。12 歳からヴァイオリンを始める。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を卒業。オレグ・クリサ氏の特別レッスンを受講。これまでにヴァイオリンを川沼文夫、星野和夫、水野佐知香の各氏に師事。ヴィオラを大野かおる、古川原裕仁、安藤裕子の各氏に師事。室内楽を水野佐知香、羽川真介、大野かおるの各氏に師事。

1、アントニン ドヴォルザーク / ソナチネ ト長調 作品 100 より第 1、3、4 楽章

2、フリッツ クライスラー / カヴァティーナ

3、バルトーク ベーラ/ ルーマニア民俗舞曲 (ヴァイオリン:濵萌香)

ドヴォルザークは、北ボヘミア(現在のチェコ)に生まれた。30 歳を超えた頃、作曲家として成熟を見せ、ブラームスに才能を見い出された。彼が 50 歳の時アメリカに渡り、その翌年、当時 15 歳の娘と 10 歳の息子のために書かれた曲である。第 1 楽章 Allegro risoluto ト長調 4 分の 3 拍子。第 2 主題では、チェコのモラヴィア地方のよく知られた民謡との類似が指摘されている。第 3 楽章 Molto vivace ト長調 4 分の 3 拍子。スケルツォ形式であり、Molto Vivace と示されているのでスピード感はあるが、威厳と優雅さが漂う楽章になっている。第 4 楽章 Allegro ト長調 4 分の 2 拍子。フレッシュで快活な第 1 主題で始まり、スコチナーのリズムを持つ第 2 主題が出てくる。スコチナーとは、2 拍子のとても活発なボヘミアの民族舞曲の事である。

カヴァティーナは現在では、アリアやレスタティーヴォなどと区別して、素朴な旋律を持つ歌謡的な声楽曲という意味に使われる。また、叙情的な旋律を表現の主体とする小品という意味で、様々な作曲家によって器楽曲のカヴァティーナが作曲された。

バルトークは、当時のオーストリア・ハンガリー二重帝国からの民族独立の思潮に共鳴し、ハンガリー独自の音楽の研究に力を注ぐようになる。この曲は元々、当時ハンガリー王国の一部であったトランシルヴァニアで民謡を採集し、それを題材にした 6 曲の小さなピアノ組曲である。第1曲 Jocul cu bata(棒踊り) 4 分の 2 拍子。タイトルにもある通り、棒(杖)を持って踊る音楽。各節の終わりに杖で地を打つようなリズムが付いている。第2曲 Braul(飾帯をつけた踊り)4 分の 2 拍子。美しく着飾った農民達が喜びに浮かれる踊り。第3曲 Pe loc(足踏み踊り)4 分の 2 拍子。ピアニッシモで哀愁漂うひなびたメロディであることから、足踏みで脱穀しながらの労働歌ではないか。とも言われている。第4曲 Buciumeana(ブチュムの踊り) 4 分の 3 拍子。3拍子のゆったりとした舞踏曲。第5曲 "Poarga" romaneasca(ルーマニア風ポルカ)。第6曲 Manuntelul(急速な踊り)4 分の 2 拍子。情熱的で野性味のある速いテンポで始まる。後半はさらに速さを増し、その勢いのまま熱狂的に締めくくられる。

♪profile♪

長野県出身。3 歳よりヴァイオリンを始める。これまでにヴァイオリンを青木千枝子、矢口十詩子、北原よし子、千葉純子、ヴィオラを古川原裕仁、室内楽を川田知子、須田祥子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学大学院 1 年に在学中。

ヨハネス＝ブラームスヴァイオリン/協奏曲ニ長調作品 77 第1，3楽章

(ヴァイオリン：林桃子)

ブラームスは、1833 年にドイツのハンブルクに生まれ、あらゆる分野で、すぐれた数々の名曲を残した大作曲家である。ヴァイオリン協奏曲は、1878 年にペルチャッハで作曲されたが、この時期は特にブラームスの作曲活動が盛んであった。作曲の動機としては、1877 年にヴァイオリニストのサラサーテの演奏を聴いたことだと言われている。そして、この協奏曲の作曲に大きな影響を与えたのが、ブラームスと長年に渡って親交のあった、ヴァイオリニストであるヨーゼフ・ヨアヒムである。ブラームスは演奏技巧的な面で、ヨアヒムに多くの助言を求め、ヨアヒムは、第1楽章のカデンツァも作曲している。初演は 1879 年 1 月 1 日にライプツィヒのゲヴァントハウスで、ヨアヒムの独奏、ブラームスの指揮で行われた。

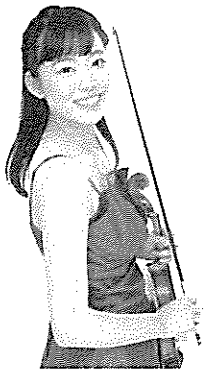
第1楽章

Allegro non troppo 4分の3拍子 ソナタ形式。

第3楽章

Allegro giocoso , ma non troppo vivace 4分の2拍子。ロンド・ソナタ形式。

主題はハンガリーのジプシー風の色彩を持っており、ヨアヒムが作曲した《ハンガリー調の協奏曲》の影響があるとされている。

♪profile♪

神奈川県出身。3 歳よりヴァイオリンを始める。洗足学園中学高等学校卒業。洗足学園音楽大学弦楽器コースヴァイオリン専攻卒業。第 31 回全日本ジュニアクラシックコンクール第 4 位。第 29 回日本クラシック音楽コンクール大学生の部全国大会入選。リチャード・ディーキン、ナムユン・キム、オレグ・クリサ、フェデリコ・アゴスティーニの各氏来日時にレッスンを受講。第 7 回、8 回音楽大学オーケストラ・フェスティバルに参加。これまでにヴァイオリンを堀越みちこ、渡邉ゆづき、ヴィオラを古川原裕仁、安藤裕子、室内楽を安永徹、市野あゆみ、羽川真介、古川原裕仁、大野かおる、川原千真の各氏に師事。